

最近の三宅島の火山活動（その4） - 活動の概況 -

Activity of Miyakejima volcano(4)-An outlook of the volcanic activity-

気象庁地震火山部・三宅島測候所 尾台 正信

Seismological and Volcanological Department, JMA and Miyakejima Weather Station, JMA Odai Masanobu

1 カルデラの状況及び噴煙活動

2000年7~8月に進行した山頂カルデラの陥没は、一部のカルデラ壁の小規模な崩落はみられるもののほとんど停滞しており、カルデラ南部の複数の火口から白色の噴煙を連続的に放出している。時折少量の火山灰の放出と降灰をもたらす噴火が発生しているが、その頻度は少なく、その規模や継続時間も極めて小さいものである。2000年12月~2001年1月に続き、2001年11~12月には火映現象が見られた。

2 地震活動

2001年に入ってから、山頂直下の地震活動は低い状態で推移し、1日数回~20回程度の火山性地震が発生している。火山性微動（低周波地震）は断続的に発生し、1日0回~20回程度で推移しているが、一時的に100回/日を超えるほど活発化することがある。火山性微動（低周波地震）の規模は最大でM2.5程度に達し、山麓で有感となるものもある。また、規模の大きな火山性微動（低周波地震）は微小な空振を伴うことが多い。小規模な噴火は、火山性微動（低周波地震）が多発する時期に発生することがあり、火山性微動（低周波地震）と同時に火山灰の放出が観測されることも多い。

3 火山ガスの放出量

COSEPC 観測による二酸化硫黄の放出量値は、2000年12月の数万 ton/day を超える放出量をピークに減少を始めた。2001年にはいっても、時折数万 ton/day を超える多量の放出量を観測することもあるが、長期的には減少傾向となっており、現在では1~2万 ton/day 程度の放出量が続いている。

4 火山性微動の多発と火山ガス放出量との相関

火山性微動（低周波地震）が一時的に多発し活発化したのは、2001年3月中旬、5月中旬~下旬、9月下旬、11月上旬、2002年1月中旬である。この火山性微動が多発した後に二酸化硫黄放出量が一時的に増加する傾向が見られる。

5 火山活動の評価

以上のように2001年以降、火山活動の状況に大きな変化はなく、推移している。火山ガスの放出量は概ね1年間で1/3のペースで減少しており、長期的には低下傾向にある。しかし、現在でも風向によっては山麓で数 ppm の二酸化硫黄濃度が検出されており、火山ガスに対する警戒が必要な状態が続いている。

謝 辞

COSEPC 観測は、産業技術総合研究所地質調査総合センター及び東京工業大学のご指導を得ながら、防衛庁・海上保安庁・警視庁・東京消防庁の協力によって実施している。お礼申し上げます。